**桐原書店『新 現代の国語』（現国212-901）　評価規準案**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科目 | 単位数 | 学年 | 使用教科書 |
| 現代の国語 | 2単位 | 1学年 | 『新 現代の国語』（桐原書店） |

**１.学習の到達目標**

|  |
| --- |
| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。  (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや  考えを広げたり深めたりすることができるようにする。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての  自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

**２．評価の観点**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 |

**３．使用副教材**

|  |
| --- |
| 『「新 現代の国語」準拠　予習復習ノート』 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 〈知〉のコミュニティへ | わからないぐらいがちょうどいい　最果タヒ  （p.8～p.12） | １ | ・随想の基本的な読み方を習得する。  ・随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方を理解する。  ・言葉を通じた他者理解についての筆者の考えを読み取ったうえで、自らの経験に照らして自分なりの言語観を持つ。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉で物事の本質や意義を理解し、論理の構築や情報の精査をしている。  Ｂ：言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉で自分自身の考え方を十分に表現できていない。 | 話　(1)イ  Ａ：｢わからないぐらいがちょうどいい｣について、自分の考えを相手に間違いなくかつ過不足なく伝えるとともに、相手の立場や理解度を的確に把握して、相手が納得できるよう話を進めていくことができている。  Ｂ：｢わからないぐらいがちょうどいい｣について、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。  Ｃ：｢わからないぐらいがちょうどいい｣について、自分の考えや立場を相手に明確に伝えるための話すことの工夫が十分にできていない。  話　(1)エ  Ａ：｢わからないぐらいがちょうどいい｣について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：｢わからないぐらいがちょうどいい｣について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：｢わからないぐらいがちょうどいい｣について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 1 言葉に表す | ふしぎと人生　河合隼雄  （p.14～p.19） | ３ | 〈単元目標〉  読み手や聞き手を意識しながら、見  たことや感じたこと、考えたことを  言葉に表現する。  ・随想の基本的な読み方を習得する。  ・二項対立的な内容を把握しながら、全体の構成を的確に捉える。  ・具体例が示しているものを丁寧に読み取り、筆者の主張を理解する。  ・「自然科学」的な見方と「物語」的な見方の意義について、自分との関わりの中で考察する。  ・本文中の「雨はなぜ降るの。」「飛行機は飛んで行くうちにだんだん小さくなっていくけど、中に乗っている人間はどうなるの」という質問に対して、子どもが納得するような「物語」的な答えを考え、発表する。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉で物事の本質や意義を理解し、論理の構築や情報の精査をしている。  Ｂ：言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉で自分自身の考え方を十分に表現できていない。  知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。 | 話　(1)ア  Ａ：｢ふしぎと人生｣について、実社会の中から目的や場にふさわしく、かつ信頼性や妥当性のある情報を吟味し、効果的に可視化して伝えている。  Ｂ：｢ふしぎと人生｣について、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な視点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。  Ｃ：｢ふしぎと人生｣について、目的や場に応じた適切な話題やふさわしい情報を十分に収集することができていない。  話　(1)ウ  Ａ：｢ふしぎと人生｣について、話す内容が相手に正確に伝わり、理解を得るための適切な言葉や発話ができており、相手の共感を引き出して話を深めることができている。  Ｂ：｢ふしぎと人生｣について、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるよう表現を工夫している。  Ｃ：｢ふしぎと人生｣について、話し言葉の特徴や表現の特色の効果について十分に理解できていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分の考えの根拠を明確に示し、表現の工夫も意識して、積極的に他者にわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：表現を工夫し、自分の考えを他者にわかりやすく伝えようとしている。  Ｃ：自分の考えや思いについて自分の言葉で他者に伝えようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 実用的な文章１　学級日誌―日々の記録を残す  （p.20～p.22） | １ | 〈単元目標〉  読み手や聞き手を意識しながら、見  たことや感じたこと、考えたことを  言葉に表現する。  ・実用的な文章の基本的な読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「残す」タイプの文章について、記す際の注意点や、文章として残すことの意義を考える。  ・実際に「学級日誌」に記入し、記入した内容のよい点・悪い点についてペアで指摘し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「実用的な文章１　学級日誌」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「実用的な文章１　学級日誌」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「実用的な文章１　学級日誌」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)エ  Ａ：「実用的な文章１　学級日誌」について、目的やその意図が読み手に十分に伝わるよう、文章の表現に適切な工夫がなされており、実社会に関わる内容として書き手の考察が文章として明確に示されている。  Ｂ：「実用的な文章１　学級日誌」について、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  Ｃ：「実用的な文章１　学級日誌」について、文章を書く目的や意図があいまいで、文章の特長や課題が捉えられてない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分の考えの根拠を明確に示し、表現の工夫も意識して、積極的に他者にわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：表現を工夫し、自分の考えを他者にわかりやすく伝えようとしている。  Ｃ：自分の考えや思いについて自分の言葉で他者に伝えようとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 読書は必要か？  （p.23～p.28） | ２ | 〈単元目標〉  読み手や聞き手を意識しながら、見  たことや感じたこと、考えたことを  言葉に表現する。  ・テーマを同じくする複数の文章・資料をそれぞれ正確に読み取るとともに、相互の対応関係について理解する。  ・読書の意義や、読書と密接に関わる言葉の働きについて考察する。  ・読書の意義や必要性について、自分の立場と自分の考えの根拠を明  　確にして発表する。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉で物事の本質や意義を理解し、論理の構築や情報の精査をしている。  Ｂ：言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉で自分自身の考え方を十分  に表現できていない。  知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。  知　(3)ア  Ａ：読書の意義と効用を理解し、テーマを設けて複数の図書を読み比べるなど、実社会との関わりを考えることができている。  Ｂ：実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。  Ｃ：読書には意義と効用があり、実社会と関わりを考えるために必要なものだということが十分に理解できていない。 | 話　(1)イ  Ａ：「読書は必要か？」について、自分の考えを相手に間違いなくかつ過不足なく伝えるとともに、相手の立場や理解度を的確に把握して、相手が納得できるよう話を進めていくことができている。  Ｂ：「読書は必要か？」について、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「読書は必要か？」について、自分の考えや立場を相手に明確に伝えるための話すことの工夫が十分にできていない。  話　(1)エ  Ａ：「読書は必要か？」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「読書は必要か？」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「読書は必要か？」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分の考えの根拠を明確に示し、表現の工夫も意識して、積極的に他者にわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：表現を工夫し、自分の考えを他者にわかりやすく伝えようとしている。  Ｃ：自分の考えや思いについて自分の言葉で他者に伝えようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ２ 筋道をつかむ | ほどほどのデザイン　佐藤卓  （p.30～p.37） | ２ | 〈単元目標〉  論理の展開を意識しながら、文章を  理解し、考えを述べる。  ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・対比構造を読み取りながら、筆者の主張を的確に捉える。  ・デザインを考えることを通じて「人の豊かさ」とは何か、考察を深める。  ・西洋のフォーク・ナイフと日本の箸、中国・韓国の箸と日本の箸について比較し、日本のデザインの特徴に着目しながら、比較の内容をそれぞれまとめる。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「ほどほどのデザイン」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「ほどほどのデザイン」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「ほどほどのデザイン」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「ほどほどのデザイン」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「ほどほどのデザイン」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「ほどほどのデザイン」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：比較や具体例を通じて理解した筆者の見解や論理の展開を踏まえ、自らの考えを深めるとともに考えを発信しようとしている。  Ｂ：比較や具体例を通じて理解した筆者の見解や論理の展開を踏まえ、自らの考えを深めようとしている。  Ｃ：比較や具体例を通じて筆者の見解や論理の展開を捉えようとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 言葉の力　大岡信  （p.38～p.46） | ４ | 〈単元目標〉  論理の展開を意識しながら、文章を  理解し、考えを述べる。  ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・具体例を丁寧に読み取りながら論理の展開を把握し、筆者の主張を的確に捉える。  ・普段、何気なく使っている言葉の働きにあらためて目を向け、自らの言語生活を見つめ直す。  ・染色家志村ふくみさんの話と本文全体における筆者の見解との関連について、説明する。 | 知　(1)ア  Ａ：言葉で物事の本質や意義を理解し、論理の構築や情報の精査をしている。  Ｂ：言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。  Ｃ：言葉で自分自身の考え方を十分に表現できていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「言葉の力」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「言葉の力」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「言葉の力」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「言葉の力」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「言葉の力」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「言葉の力」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：比較や具体例を通じて理解した筆者の見解や論理の展開を踏まえ、自らの考えを深めるとともに考えを発信しようとしている。  Ｂ：比較や具体例を通じて理解した筆者の見解や論理の展開を踏まえ、自らの考えを深めようとしている。  Ｃ：比較や具体例を通じて筆者の見解や論理の展開を捉えようとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 演劇と「人間の速度」　鴻  上尚史  （p.47～p.53） | ２ | 〈単元目標〉  論理の展開を意識しながら、文章を  理解し、考えを述べる。  ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・スマートフォンと演劇の特性についての比較を通して、筆者の見解を捉える。  ・生活必需品ともいえるスマートフォンの利便性について考えることで、当たり前になりつつある考えや状況を見つめ直す。  ・筆者の演劇の存在理由に関する見解を根拠とともにまとめ、その見解についての自分の考えをペアで発表し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。 | 話　(1)ウ  Ａ：「演劇と『人間の速度』」について、話す内容が相手に正確に伝わり、理解を得るための適切な言葉や発話ができており、相手の共感を引き出して話を深めることができている。  Ｂ：「演劇と『人間の速度』」について、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるよう表現を工夫している。  Ｃ：「演劇と『人間の速度』」について、話し言葉の特徴や表現の特色の効果について十分に理解できていない。  話　(1)エ  Ａ：「演劇と『人間の速度』」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「演劇と『人間の速度』」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「演劇と『人間の速度』」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：比較や具体例を通じて理解した筆者の見解や論理の展開を踏まえ、自らの考えを深めるとともに考えを発信しようとしている。  Ｂ：比較や具体例を通じて理解した筆者の見解や論理の展開を踏まえ、自らの考えを深めようとしている。  Ｃ：比較や具体例を通じて筆者の見解や論理の展開を捉えようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 評論解析Ａ | マヨネーズの穴から　原研哉  （p.54～p.55） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・話題、論旨の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。 | 知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを  明確に示すことができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「マヨネーズの穴から」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「マヨネーズの穴から」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「マヨネーズの穴から」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できていない。  読　(1)イ  Ａ：「マヨネーズの穴から」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「マヨネーズの穴から」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「マヨネーズの穴から」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
|  | 環境世界　大井玄  （p.56～p.57） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・本文中の対比構造に着目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむ。 | 知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「環境世界」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「環境世界」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「環境世界」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「環境世界」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「環境世界」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「環境世界」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 紫外線　中村桂子  （p.58～p.59） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・具体例の働きを理解して、論旨や筆者の主要な見解をつかむ。 | 知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「紫外線」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「紫外線」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「紫外線」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「紫外線」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「紫外線」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「紫外線」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 立憲主義の成立　長谷部恭男  （p.60～p.61） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・論理構造を読み解き、話題に対する筆者の見解やその根拠をつかむ。 | 知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。 | 読　(1)ア  Ａ：「立憲主義の成立」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「立憲主義の成立」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「立憲主義の成立」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「立憲主義の成立」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「立憲主義の成立」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「立憲主義の成立」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ３ 視点を変える | 星の目で見る　阿部雅世  （p.64～p.70） | ２ | 〈単元目標〉  普段と異なる視点から物事を見て、  固定されがちな考えを揺さぶってみ  る。  ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・宇宙から地球を見た具体例を踏まえ、筆者の見解を捉える。  ・「星の目」を意識し、デジタルデバイスの意義について考える。  ・地上にいる私たちの身近にありながら「星の目」を持つデジタルデバイスの特徴、また私たちはそれをどのように利用すべきかについ  て、グループで話し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「星の目で見る」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「星の目で見る」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「星の目で見る」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「星の目で見る」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「星の目で見る」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「星の目で見る」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について改めて考え、発信し、積極的に新たな視点で物事を捉えて視野を広げようとしている。  Ｂ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について考え、新たな視点で物事を捉えようとしている。  Ｃ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について立ち止まって考えようとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 世界の周縁に身を置く人　小川洋子  （p.71～p.75） | ２ | 〈単元目標〉  普段と異なる視点から物事を見て、  固定されがちな考えを揺さぶってみ  る。  ・具体例を丁寧に読み取りながら、筆者の思いを捉える。  ・翻訳家柴田元幸さんのエピソードを踏まえ、筆者の考える「小説を書く意味」について考える。  ・「はじっこ」に身を置く人を通して、視点を転換させることの意味について考えを深める。  ・脇役が魅力的な作品（小説、映画、漫画など）を一つ選び、その脇役の魅力を紹介する文章を書く。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「世界の周縁に身を置く人」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「世界の周縁に身を置く人」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「世界の周縁に身を置く人」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)ウ  Ａ：「世界の周縁に身を置く人」について、自分が伝えたい考えや事柄が過不足なく説明され、適切な根拠が示されており、内容にふさわしい文章の種類や、文体や語句が的確に選択され、かつ読み手を配慮した表現が随所にみられる。  Ｂ：「世界の周縁に身を置く人」について、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「世界の周縁に身を置く人」について、自分の考えや事柄を説明するための根拠の示し方が十分でなく、語句の選択など事柄を伝えることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について改めて考え、発信し、積極的に新たな視点で物事を捉えて視野を広げようとしている。  Ｂ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について考え、新たな視点で物事を捉えようとしている。  Ｃ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について立ち止まって考えようとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| カルチャーショック　村田沙耶香  （p.76～p.83） | ３ | 〈単元目標〉  普段と異なる視点から物事を見て、  固定されがちな考えを揺さぶってみ  る。  ・小説の基本的な読み方を習得する。  ・人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことで、描かれている世界を深く理解する。  ・異文化と接するということが持つ意味について考えを深める。  ・老婆と出会う前と出会った後の「僕」を比較し、異文化と接することについての「僕」の受けとめ方や考えを確認したうえで、自分の身近な体験を書く。  ・異文化と接することによって生じたことを、身近な具体例から探す。  ・異文化と接することについてどう考えるか、具体例を挙げながら意  　見文を書く。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。  知　(2)エ  Ａ：情報の吟味の仕方の様々な方法を知り、使い分けながら妥当性や信頼性を見極めている。  Ｂ：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使用している。  Ｃ：情報の妥当性や信頼性について理解が不十分で適確に判断できていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「カルチャーショック」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「カルチャーショック」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「カルチャーショック」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)イ  Ａ：「カルチャーショック」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「カルチャーショック」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「カルチャーショック」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について改めて考え、発信し、積極的に新たな視点で物事を捉えて視野を広げようとしている。  Ｂ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について考え、発信し、新たな視点で物事を捉えようとしている。  Ｃ：固定化されがちな見方や考え方に対して、その意義や本質について立ち止まって考えようとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ４ 他者と向き合う | わかろうとする姿勢　鷲田清一  （p.88～p.95） | ４ | 〈単元目標〉  立場の違い、時代や文化の違い、価  値観の違いなどを踏まえて、他者を  意識する。  ・評論の読み方を習得する。  ・具体例を丁寧に読み取りながら論理の展開を把握し、筆者の主張を的確に捉える。  ・「他者理解」というテーマにおいて、「わかろうとする姿勢」を他者に示したことがあるか、相手はそれに「応え」てくれたことはあるか、自分のこれまでの経験を踏まえてグループで話し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「わかろうとする姿勢」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「わかろうとする姿勢」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「わかろうとする姿勢」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「わかろうとする姿勢」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「わかろうとする姿勢」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「わかろうとする姿勢」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、粘り強く他者と向き合い、理解しようとしている。  Ｂ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、他者を理解しようとしている。  Ｃ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者について興味を持とうとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| アリューシャン、老兵の夢と闇　星野道夫  （p.96～p.105） | ３ | 〈単元目標〉  立場の違い、時代や文化の違い、価  値観の違いなどを踏まえて、他者を  意識する。  ・随想の読み方を習得する。  ・戦争に対する歴史的事実と体験者の声を表現に即して的確に読み取る。  ・筆者の戦争に対する姿勢を参考にして、自らの考えや生きる姿勢を深める。  ・本文中で筆者が戦争の悲惨さについて述べていることを踏まえ、戦争を体験した人から話を聞いたり、戦争に関する資料を調べたり、本を読んだりして、戦争について考えたことをレポートにまとめる。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「アリューシャン、老兵の夢と闇」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「アリューシャン、老兵の夢と闇」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「アリューシャン、老兵の夢と闇」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)イ  Ａ：｢アリューシャン、老兵の夢と闇｣について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「アリューシャン、老兵の夢と闇」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「アリューシャン、老兵の夢と闇」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、粘り強く他者と向き合い、理解しようとしている。  Ｂ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、他者を理解しようとしている。  Ｃ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者について興味を持とうとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 実用的な文章２　文化祭の企画―相手に働きかける  （p.106～p.109） | １ | 〈単元目標〉  立場の違い、時代や文化の違い、価  値観の違いなどを踏まえて、他者を  意識する。  ・実用的な文章の基本的な読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「企てる」タイプの文章について、内容・視覚の両面から、効果的な情報の伝え方を考える。  ・実際に宣伝パンフレット原稿を作成し、伝えるべき情報の選択や、効果的な情報の伝え方を工夫する。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)イ  Ａ：「実用的な文章２　文化祭の企画」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「実用的な文章２　文化祭の企画」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「実用的な文章２　文化祭の企画」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。  書　(1)ウ  Ａ：「実用的な文章２　文化祭の企画」について、自分が伝えたい考えや事柄が過不足なく説明され、適切な根拠が示されており、内容にふさわしい文章の種類や、文体や語句が的確に選択され、かつ読み手を配慮した表現が随所にみられる。  Ｂ：「実用的な文章２　文化祭の企画」について、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「実用的な文章２　文化祭の企画」について、自分の考えや事柄を説明するための根拠の示し方が十分でなく、語句の選択など事柄を伝えることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、粘り強く他者と向き合い、理解しようとしている。  Ｂ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、他者を理解しようとしている。  Ｃ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者について興味を持とうとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 神様　川上弘美  （p.110～p.119） | ２ | 〈単元目標〉  立場の違い、時代や文化の違い、価  値観の違いなどを踏まえて、他者を  意識する。  ・小説の基本的な読み方を習得する。  ・人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことで、描かれている世界を深く理解する。  ・他者との心の交流やその難しさについて考えを深める。  ・人間の世界では「くま」はどのような存在か、また「くま」にとって「わたし」はどのような存在か、考えを深める。  ・他者と関係を築くにあたり、「他者」とは自分にとってどのような存在であると言えるか、具体例を書き出しながらグループで話し合う。  ・「他者」とは何か、自分の考えをレポートにまとめる。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「神様」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「神様」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「神様」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)イ  Ａ：「神様」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「神様」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「神様」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、粘り強く他者と向き合い、理解しようとしている。  Ｂ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者との関わりを振り返ったり、他者について考えるなど、他者を理解しようとしている。  Ｃ：自分とは違う文化や価値観などに目を向け、他者について興味を持とうとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ５ 問いを立てる | サイボーグとクローン人間　山崎正和／〔参考〕人間拡張の現在　吉川浩満  （p.124～p.134） | ３ | 〈単元目標〉  物事を観察して矛盾を発見し、問いのかたちにして考える。  ・評論の読み方を習得する。  ・二項対立による比較対照に着目し、筆者の主張を的確に捉える。  ・「サイボーグとクローン人間」という話題を通して、現代の科学や社会のあり方について自分の考えを深める。  ・筆者が、人々が危険や嫌悪を感じているクローン人間よりも、人々が楽天的に受け入れているサイボーグに対して危険であると考えている理由をまとめる。  〔参考〕人間拡張の現在  ・山崎正和「サイボーグとクローン人間」の参考として読み、科学技術の発達と人間との関係について改めて考える。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。 | 読　(1)ア  Ａ：「サイボーグとクローン人間」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「サイボーグとクローン人間」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「サイボーグとクローン人間」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「サイボーグとクローン人間」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「サイボーグとクローン人間」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「サイボーグとクローン人間」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分が抱いた疑問や矛盾について具体的な問いを立て、粘り強く問いに向き合うことで、自らの考えを深めようとしている。  Ｂ：自分が抱いた疑問や矛盾について具体的な問いを立て、問いに向き合おうとしている。  Ｃ：自分が抱いた疑問や矛盾について、具体的な問いを立てようとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 問いの立て方とオリジナリティ　上野千鶴子  （p.135～p.140） | ２ | 〈単元目標〉  物事を観察して矛盾を発見し、問いのかたちにして考える。  ・評論の読み方を習得する。  ・研究活動において「問いを立てる」ことの重要性や、「問いを立てる」際の条件を理解する。  ・立てた問いが「オリジナル」であるとはどういうことか、理解する。  ・実際に問いを立て、その問いについて互いに検証することを通じて、高等学校での探究活動にも通用する研究への態度を養う。 | 知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)エ  Ａ：情報の吟味の仕方の様々な方法を知り、使い分けながら妥当性や信頼性を見極めている。  Ｂ：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使用している。  Ｃ：情報の妥当性や信頼性について理解が不十分で適確に判断できていない。 | 話　(1)ア  Ａ：「問いの立て方とオリジナリティ」について、実社会の中から目的や場にふさわしく、かつ信頼性や妥当性のある情報を吟味し、効果的に可視化して伝えている。  Ｂ：「問いの立て方とオリジナリティ」について、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な視点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。  Ｃ：「問いの立て方とオリジナリティ」について、目的や場に応じた適切な話題やふさわしい情報を十分に収集することができない。  話　(1)エ  Ａ：「問いの立て方とオリジナリティ」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「問いの立て方とオリジナリティ」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「問いの立て方とオリジナリティ」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分が抱いた疑問や矛盾について具体的な問いを立て、粘り強く問いに向き合うことで、自らの考えを深めようとしている。  Ｂ：自分が抱いた疑問や矛盾について具体的な問いを立て、問いに向き合おうとしている。  Ｃ：自分が抱いた疑問や矛盾について、具体的な問いを立てようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ６ 論理を組み立てる | 経済の論理／環境の倫理  （p.142～p.148） | ３ | 〈単元目標〉  論理の組み立て方を身につけて、考  えをわかりやすく伝える。  ・評論の読み方を習得する。  ・論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。  ・「未来世代」と「現在世代」との利害対立という観点から、環境問題に対して認識を深める。  ・本文中における筆者の、経済学の考え方を示した後、対比される考え方によってそれを否定しながら環境問題を解決するための方向性を示すという論理展開を確認し、図にまとめる。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)エ  Ａ：情報の吟味の仕方の様々な方法を知り、使い分けながら妥当性や信頼性を見極めている。  Ｂ：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使用している。  Ｃ：情報の妥当性や信頼性について理解が不十分で適確に判断できていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「経済の論理／環境の倫理」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「経済の論理／環境の倫理」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「経済の論理／環境の倫理」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「経済の論理／環境の倫理」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「経済の論理／環境の倫理」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「経済の論理／環境の倫理」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討し  たりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を積極的に身につけ、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を身につけ、自分の考えを伝えようとしている。  Ｃ：各教材のさまざまな論理展開を確認し、論理の組み立て方を身につけようとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 情動の必要性　信原幸弘  （p.150～p.156） | ２ | 〈単元目標〉  論理の組み立て方を身につけて、考  えをわかりやすく伝える。  ・評論の読み方を習得する。  ・論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。  ・筆者が、批判的思考には適度な情動が必要と考える根拠について考える。  ・本文で筆者は、「理性」や「情動」の働きを論じながら、最終的には「適度な情動が必要」と述べている。後の例を参考にさまざまな職業や立場を想定し、それぞれ「理性」と「情動」はどの程度の割合が「適度」だと思うか、根拠を示しながら話し合う。  〈職業や立場の例〉  裁判官、医師、アナウンサー、部  活動のコーチなど | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。 | 話　(1)エ  Ａ：「情動の必要性」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「情動の必要性」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「情動の必要性」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。  話　(1)オ  Ａ：「情動の必要性」について、話合いの場では論点や目的などを意識した発言や進行を積極的に行い、状況を整理しながら進め、結論を出す時は合意の有無を明確にし、共通点や相違点を整理して提示することができている。  Ｂ：「情動の必要性」について、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。  Ｃ：「情動の必要性」について、話合いの場で設定された論点について理解に乏しいため、適切に自分の考えを表現することができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を積極的に身につけ、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を身につけ、自分の考えを伝えようとしている。  Ｃ：各教材のさまざまな論理展開を確認し、論理の組み立て方を身につけようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 実用的な文章３ 全国高校生「好きな漢字」総選挙―根拠とともに考えを述べる  （p.157～p.159） | １ | 〈単元目標〉  論理の組み立て方を身につけて、考  えをわかりやすく伝える。  ・実用的な文章の読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「企てる」タイプの文章について、キャッチコピー・ボディコピーそれぞれの役割を理解し、効果的な文言を考える。  ・ある企画のポスターと実施要項とを見比べ、対応関係を押さえた上でいずれかの不足を補う。  ・実際に「好きな漢字」総選挙に参加し、好きな漢字を選んだ理由を  根拠とともに説明し、投票する。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「実用的な文章３　全国高校生『好きな漢字』総選挙」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「実用的な文章３　全国高校生『好きな漢字』総選挙」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「実用的な文章３　全国高校生『好きな漢字』総選挙」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)ウ  Ａ：「実用的な文章３　全国高校生『好きな漢字』総選挙」について、自分が伝えたい考えや事柄が過不足なく説明され、適切な根拠が示されており、内容にふさわしい文章の種類や、文体や語句が的確に選択され、かつ読み手を配慮した表現が随所にみられる。  Ｂ：「実用的な文章３　全国高校生『好きな漢字』総選挙」について、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「実用的な文章３　全国高校生『好きな漢字』総選挙」について、自分の考えや事柄を説明するための根拠の示し方が十分でなく、語句の選択など事柄を伝えることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を積極的に身につけ、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を身につけ、自分の考えを伝えようとしている。  Ｃ：各教材のさまざまな論理展開を確認し、論理の組み立て方を身につけようとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 羅生門　芥川龍之介  （p.160～p.173） | ５ | 〈単元目標〉  論理の組み立て方を身につけて、考  えをわかりやすく伝える。  ・登場人物の境遇や人物像、行動の意味を捉える。  ・生きるための悪事を正当化する下人の心理を捉える。  ・老婆と下人が用いた論理を確認・検証し、身の回りの事柄や社会の風潮から課題を見つけ、その論理を用いて自分の意見や主張を示す文章を書く。書いた文章について、グループ内で根拠は妥当か、論理の展開に説得力があるかなどを指摘し合い、その上で自分の書いた文章を書き直す。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。  知　(2)ウ  Ａ：推論には演繹的な推論と帰納的な推論があることを理解し、意識的に使用している。  Ｂ：推論の仕方を理解し使用している。  Ｃ：推論の仕方を十分に理解できていない。 | 書　(1)イ  Ａ：「羅生門」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「羅生門」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「羅生門」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。  書　(1)エ  Ａ：「羅生門」について、目的やその意図が読み手に十分に伝わるよう、文章の表現に適切な工夫がなされており、実社会に関わる内容として書き手の考察が文章として明確に示されている。  Ｂ：「羅生門」について、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  Ｃ：「羅生門」について、文章を書く目的や意図があいまいで、文章の特長や課題が捉えられてない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を積極的に身につけ、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている。  Ｂ：各教材のさまざまな論理展開を確認して論理の組み立て方を身につけ、自分の考えを伝えようとしている。  Ｃ：各教材のさまざまな論理展開を確認し、論理の組み立て方を身につけようとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 評論解析Ｂ | グローバル化と「文脈」　與那覇潤  （p.174～p.175） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・接続表現から文脈を捉え、論理の展開や筆者の主要な見解をつかむ。 | 知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立て  や接続表現が十分にできていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「グローバル化と『文脈』」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「グローバル化と『文脈』」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「グローバル化と『文脈』」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「グローバル化と『文脈』」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「グローバル化と『文脈』」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「グローバル化と『文脈』」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| ゆらぎ　内山節  （p.176～p.177） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・指示表現が指す内容を明らかにすることで、筆者の主要な見解を明確につかむ。 | 知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「ゆらぎ」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「ゆらぎ」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「ゆらぎ」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「ゆらぎ」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「ゆらぎ」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「ゆらぎ」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 壊す生命　福岡伸一  （p.178～p.179） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・効果的な表現に込められた筆者の意図を汲み取り、主要な見解をつかむ。 | 知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「壊す生命」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「壊す生命」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「壊す生命」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「壊す生命」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「壊す生命」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「壊す生命」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| アラビア語を学ぶ　岡真理  （p.180～p.181） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・本文理解に欠かせないキーフレーズを見つけ、筆者の主要な見解をつかむ。 | 知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。 | 読　(1)ア  Ａ：「アラビア語を学ぶ」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「アラビア語を学ぶ」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「アラビア語を学ぶ」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「アラビア語を学ぶ」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「アラビア語を学ぶ」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「アラビア語を学ぶ」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ７ つながりを見いだす | 遅れてきた「私」　若林幹夫  （p.186～p.193） | ３ | 〈単元目標〉  他者との関係や社会とのつながりを  通して、自分のあり方を考える。  ・評論の読み方を習得する。  ・抽象度の高い文章においても論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。  ・社会と自分との関係について考えを深める。  ・本文の内容を踏まえ、自分の中にある「つながり」を思いつく限り挙げ、それらが「共時的」側面におけるものか、もしくは「通時的」な側面におけるものか考える。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「遅れてきた『私』」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「遅れてきた『私』」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「遅れてきた『私』」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「遅れてきた『私』」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「遅れてきた『私』」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「遅れてきた『私』」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方や他者との関わりについて粘り強く考えようとしている。  Ｂ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方について考えようとしている。  Ｃ：社会や他者とのつながりを意識し、自分自身と向き合おうとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 比較で深める  「社会」の誕生　長谷川眞理子／山岸俊男  （p.194～p.197） | １ | 〈単元目標〉  他者との関係や社会とのつながりを  通して、自分のあり方を考える。  ・対談の基本的な読み方を習得する。  ・対談という形態において、それぞれの話者が持つ役割を理解する。  ・生物の持つ「社会性」との比較を通して、ヒトの社会の特殊性を理解する。  ・若林幹夫「遅れてきた『私』」で述べられた社会とヒト（個人）の関係について、新たな角度から捉え直すことで考察を深める。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「『社会』の誕生」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「『社会』の誕生」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「『社会』の誕生」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「『社会』の誕生」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる  Ｂ：「『社会』の誕生」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「『社会』の誕生」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方や他者との関わりについて粘り強く考えようとしている。  Ｂ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方について考えようとしている。  Ｃ：社会や他者とのつながりを意識し、自分自身と向き合おうとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 実用的な文章４　求人票―働く自分を想像する  （p.198～p.201） | １ | 〈単元目標〉  他者との関係や社会とのつながりを  通して、自分のあり方を考える。  ・実用的な文章の読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「定める」タイプの文章について、その文章が定める内容を読み取り、その内容が実際の社会生活を具体的に規定していることを理解する。  ・求人票を読む際の着目点を考えたうえで、仕事の内容や労働条件を正確に読み取る。  ・求人票から見えてくるそれぞれの企業の特徴を捉え、自分はどの企業に就職したいと思ったか、また、どのような働き方をしたいと思ったかについてグループで話し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 話　(1)ア  Ａ：「実用的な文章４　求人票」について、実社会の中から目的や場にふさわしく、かつ信頼性や妥当性のある情報を吟味し、効果的に可視化して伝えている。  Ｂ：「実用的な文章４　求人票」について、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な視点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。  Ｃ：「実用的な文章４　求人票」について、目的や場に応じた適切な話題やふさわしい情報を十分に収集することができない。  話　(1)イ  Ａ：「実用的な文章４　求人票」について、自分の考えを相手に間違いなくかつ過不足なく伝えるとともに、相手の立場や理解度を的確に把握して、相手が納得できるよう話を進めていくことができている。  Ｂ：「実用的な文章４　求人票」について、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「実用的な文章４　求人票」について、自分の考えや立場を相手に明確に伝えるための話すことの工夫が十分にできていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方や他者との関わりについて粘り強く考えようとしている。  Ｂ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方について考えようとしている。  Ｃ：社会や他者とのつながりを意識し、自分自身と向き合おうとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| レオーノフの帽子屋　長田弘／I was born　吉野弘  （p.202～p.210） | ３ | 〈単元目標〉  他者との関係や社会とのつながりを  通して、自分のあり方を考える。  ・随想の読み方を習得する。  ・随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方を理解する。  ・「人の生」に対する筆者の意見を踏まえ、生きることの意味について考える。  ・本文中「一人のわたしを、他の人々の間でつかみ直す」とはどのような意味であると考えるか、また本文の内容を踏まえて、自分はこれからの人生をどのように生きていこうと思うか、さらに、その生き方は他者とどのように関わることであると言えるか、考えたことをグループで話し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。  知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。 | 話　(1)エ  Ａ：「レオーノフの帽子屋」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「レオーノフの帽子屋」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「レオーノフの帽子屋」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。  話　(1)オ  Ａ：「レオーノフの帽子屋」について、話合いの場では論点や目的などを意識した発言や進行を積極的に行い、状況を整理しながら進め、結論を出す時は合意の有無を明確にし、共通点や相違点を整理して提示することができている。  Ｂ「レオーノフの帽子屋」について、：論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。  Ｃ：「レオーノフの帽子屋」について、話合いの場で設定された論点について理解に乏しいため、適切に自分の考えを表現することができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方や他者との関わりについて粘り強く考えようとしている。  Ｂ：社会や他者とのつながりを意識することで自分自身と向き合い、自分のあり方について考えようとしている。  Ｃ：社会や他者とのつながりを意識し、自分自身と向き合おうとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ８ 常識を問い直す | 言葉は「ものの名前」ではない　内田樹  （p.212～p.217） | ２ | 〈単元目標〉  当たり前とされがちなことを批判的に問い直して、新しい考えを得る。  ・評論の読み方を習得する。  ・論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える。  ・伝統的な言語観と筆者が提示する言語観の違いを捉え、図の空欄を埋めて確認する。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「言葉は『ものの名前』ではない」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「言葉は『ものの名前』ではない」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「言葉は『ものの名前』ではない」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「言葉は『ものの名前』ではない」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる  Ｂ：「言葉は『ものの名前』ではない」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「言葉は『ものの名前』ではない」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：当たり前とされがちなことについて問い直し、粘り強く考えることで、積極的に新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｂ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えることで、新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｃ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えようとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 納税は義務か　大竹文雄  （p.218～p.223） | ３ | 〈単元目標〉  当たり前とされがちなことを批判的に問い直して、新しい考えを得る。  ・評論の読み方を習得する。  ・引用を通じて筆者の見解の中心を読み取る。  ・推論のしかたの類型を理解し、実際の用いられ方の実例を本文の中に確認する。  ・国家の働きやそれと関わる納税についての筆者の考えをまとめ、その考えについてどう思うか話し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)ウ  Ａ：推論には演繹的な推論と帰納的な推論があることを理解し、意識的に使用している。  Ｂ：推論の仕方を理解し使用している。  Ｃ：推論の仕方を十分に理解できていない。 | 話　(1)イ  Ａ：「納税は義務か」について、自分の考えを相手に間違いなくかつ過不足なく伝えるとともに、相手の立場や理解度を的確に把握して、相手が納得できるよう話を進めていくことができている。  Ｂ：「納税は義務か」について、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「納税は義務か」について、自分の考えや立場を相手に明確に伝えるための話すことの工夫が十分にできていない。  話　(1)エ  Ａ：「納税は義務か」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「納税は義務か」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「納税は義務か」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：当たり前とされがちなことについて問い直し、粘り強く考えることで、積極的に新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｂ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えることで、新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｃ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー ―通念の変遷をたどる  （p.224～p.229） | １ | 〈単元目標〉  当たり前とされがちなことを批判的に問い直して、新しい考えを得る。  ・実用的な文章の基本的な読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「知らせる」タイプの文章について、その文章が最も伝えたい内容を読み取る。  ・時代の異なる新聞記事を読み比べ、それぞれから読み取れる時代背景や人々の意識の違いについて読み取る。  ・バリアフリーやユニバーサルデザインの実例を挙げ、さらにどのようなものがあるとよいかについて  　話し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 話　(1)ア  Ａ：「実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー」について、実社会の中から目的や場にふさわしく、かつ信頼性や妥当性のある情報を吟味し、効果的に可視化して伝えている。  Ｂ：「実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー」について、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な視点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。  Ｃ：「実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー」について、目的や場に応じた適切な話題やふさわしい情報を十分に収集することができない。  話　(1)エ  Ａ：「実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「実用的な文章５　新聞記事とバリアフリー」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：当たり前とされがちなことについて問い直し、粘り強く考えることで、積極的に新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｂ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えることで、新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｃ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| ＡＩの判断　船木亨／〔参考〕人工知能はなぜ椅子に座れないのか　松田雄馬  （p.230～p.236） | ２ | 〈単元目標〉  当たり前とされがちなことを批判的に問い直して、新しい考えを得る。  ・評論の読み方を習得する。  ・指示表現が指す内容を正確に押さえ、論旨の展開を把握する。  ・ＡＩの普及が人類に及ぼす影響について、筆者の主張を読み取ったうえで、自分の考えを深める。  ・ＡＩについての人々の先入観に対する筆者の考えを踏まえ、ＡＩが普及した社会における「人だからこそ果たせる役割」について話し合う。  〔参考〕人工知能はなぜ椅子に座れないのか  ・船木亨「ＡＩの判断」の参考として読み、ＡＩの判断に「『未来』はない。」ということについて、「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」における「身体」「物語」といった語に着目しながら改めて考える。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 話　(1)ウ  Ａ：「ＡＩの判断」について、話す内容が相手に正確に伝わり、理解を得るための適切な言葉や発話ができており、相手の共感を引き出して話を深めることができている。  Ｂ：「ＡＩの判断」について、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるよう表現を工夫している。  Ｃ：「ＡＩの判断」について、話し言葉の特徴や表現の特色の効果について十分に理解できていない。  話　(1)オ  Ａ：「ＡＩの判断」について、話合いの場では論点や目的などを意識した発言や進行を積極的に行い、状況を整理しながら進め、結論を出す時は合意の有無を明確にし、共通点や相違点を整理して提示することができている。  Ｂ：「ＡＩの判断」について、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫している。  Ｃ：「ＡＩの判断」について、話合いの場で設定された論点について理解に乏しいため、適切に自分の考えを表現することができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：当たり前とされがちなことについて問い直し、粘り強く考えることで、積極的に新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｂ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えることで、新たなものの見方や考え方を得ようとしている。  Ｃ：当たり前とされがちなことについて問い直し、考えようとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| ９ 情報を関連づける | 食の履歴書　湯澤規子  （p.238～p.246） | ３ | 〈単元目標〉  文章や図表など、複数の情報を関連  づけて、物事をさまざまな角度から  捉える。  ・評論の読み方を習得する。  ・本文と引用や資料との関係を正確に捉え、筆者の主張を読み取る。  ・近代から現代への時代の移り変わりを、「食」の問題を通じて理解する。  ・本文内容に関連する資料を探し、その資料と本文との関連について、グループ内でわかりやすく説明する。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)エ  Ａ：情報の吟味の仕方の様々な方法を知り、使い分けながら妥当性や信頼性を見極めている。  Ｂ：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使用している。  Ｃ：情報の妥当性や信頼性について理解が不十分で適確に判断できていない。  知　(2)オ  Ａ：引用や出典明示の効果を知り、自らの主張を補強するために積極的に使用するだけでなく、その取り扱い方にも配慮している。  Ｂ：引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使用している。  Ｃ：引用や出典明示をすることの必要性や効果への理解が乏しく、積極的に使用することができていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「食の履歴書」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「食の履歴書」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「食の履歴書」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「食の履歴書」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる  Ｂ：「食の履歴書」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「食の履歴書」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取り、多角的な視点から物事を捉え、積極的に自らの考えを広げようとしている。  Ｂ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取り、多角的な視点から物事を捉えようとしている。  Ｃ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取ろうとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 実用的な文章６　出入国の  手続きと管理―情報の見せ方を意識する  （p.247～p.249） | １ | 〈単元目標〉  文章や図表など、複数の情報を関連  づけて、物事をさまざまな角度から  捉える。  ・実用的な文章の基本的な読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「定める」タイプの文章について、その文章が定める内容を読み取り、その内容が実際の社会生活を具体的に規定していることを理解する。  ・グラフから大まかな傾向をつかむ読み取り方を習得する。  ・同じデータに基づいて作成された249ページのグラフⅠ・Ⅱの印象の違いについて、またその違いが何によって生じているのかについて話し合う。 | 知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「実用的な文章6　出入国の手続きと管理」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「実用的な文章6　出入国の手続きと管理」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「実用的な文章6　出入国の手続きと管理」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「実用的な文章6　出入国の手続きと管理」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「実用的な文章6　出入国の手続きと管理」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「実用的な文章6　出入国の手続きと管理」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取り、多角的な視点から物事を捉え、積極的に自らの考えを広げようとしている。  Ｂ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取り、多角的な視点から物事を捉えようとしている。  Ｃ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取ろうとしている。  主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 「人新世」と未来倫理　戸谷洋志（p.250～p.259） | ３ | 〈単元目標〉  文章や図表など、複数の情報を関連  づけて、物事をさまざまな角度から  捉える。  ・評論の読み方を習得する。  ・本文と引用や資料との関係を正確に捉え、筆者の主張を読み取る。  ・筆者の自然に対する捉え方などを通じて、「人新世」という考え方を捉える。  ・258～259ページの資料Ⅰ・Ⅱについて、資料から読み取ったことと本文の内容を関連づけて考えたことを文章にまとめる。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。  知　(2)エ  Ａ：情報の吟味の仕方の様々な方法を知り、使い分けながら妥当性や信頼性を見極めている。  Ｂ：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使用している。  Ｃ：情報の妥当性や信頼性について理解が不十分で適確に判断できていない。  知　(2)オ  Ａ：引用や出典明示の効果を知り、自らの主張を補強するために積極的に使用するだけでなく、その取り扱い方にも配慮している。  Ｂ：引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使用している。  Ｃ：引用や出典明示をすることの必要性や効果への理解が乏しく、積極的に使用することができていない。 | 書　(1)イ  Ａ：「『人新世』と未来倫理」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「『人新世』と未来倫理」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「『人新世』と未来倫理」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。  書　(1)エ  Ａ：「『人新世』と未来倫理」について、目的やその意図が読み手に十分に伝わるよう、文章の表現に適切な工夫がなされており、実社会に関わる内容として書き手の考察が文章として明確に示されている。  Ｂ：「『人新世』と未来倫理」について、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。  Ｃ：「『人新世』と未来倫理」について、文章を書く目的や意図があいまいで、文章の特長や課題が捉えられてない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取り、多角的な視点から物事を捉え、積極的に自らの考えを広げようとしている。  Ｂ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取り、多角的な視点から物事を捉えようとしている。  Ｃ：文章や図表など、複数の情報を関連づけながら本文を読み取ろうとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| 評論解析Ｃ | 我関わる、ゆえに我あり　松井孝典  （p.260～p.261） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・本文中の対比関係に注目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむ。  ・接続表現から文脈を捉え、論理の展開や筆者の主要な見解をつかむ。 | 知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。  知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。  知　(2)ウ  Ａ：推論には演繹的な推論と帰納的な推論があることを理解し、意識的に使用している。  Ｂ：推論の仕方を理解し使用している。  Ｃ：推論の仕方を十分に理解できていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「我関わる、ゆえに我あり」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「我関わる、ゆえに我あり」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：｢我関わる、ゆえに我あり｣について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「我関わる、ゆえに我あり」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「我関わる、ゆえに我あり」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「我関わる、ゆえに我あり」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 「私」が「主体」であるために　仲正昌樹  （p.262～p.263） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・話題、論旨の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。  ・本文理解に欠かせないキーフレーズを見つけ、筆者の主要な見解をつかむ。  ・松井孝典「我関わる、ゆえに我あり」と読み比べ、両者の主要な見解の共通点をまとめる。 | 知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。  知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。  知　(2)ウ  Ａ：推論には演繹的な推論と帰納的な推論があることを理解し、意識的に使用している。  Ｂ：推論の仕方を理解し使用している。  Ｃ：推論の仕方を十分に理解できていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「『私』が『主体』であるために」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「『私』が『主体』であるために」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「『私』が『主体』であるために」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「『私』が『主体』であるために」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「『私』が『主体』であるために」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「『私』が『主体』であるために」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 生物多様性と科学　本川達雄（p.264～p.265） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・論理構造を読み解き、話題に対する筆者の見解やその根拠をつかむ。  ・効果的な表現に込められた筆者の意図を汲み取り、主要な見解をつかむ。 | 知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。  知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができない。  知　(2)ウ  Ａ：推論には演繹的な推論と帰納的な推論があることを理解し、意識的に使用している。  Ｂ：推論の仕方を理解し使用している。  Ｃ：推論の仕方を十分に理解できていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「生物多様性と科学」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「生物多様性と科学」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「生物多様性と科学」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「生物多様性と科学」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「生物多様性と科学」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「生物多様性と科学」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| ヒトの「進化」と普遍性　池澤夏樹  （p.266～p.269） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・具体例の働きを理解して、論旨や筆者の主要な見解をつかむ。  ・指示表現が指す内容を明らかにすることで、筆者の主要な見解を明確につかむ。  ・本川達雄「生物多様性と科学」と読み比べ、両者の主要な見解を比較しながらまとめる。 | 知　(1)オ  Ａ：文、話、文章において、自分が伝えたい事柄についてどこに力点をおくか、効果的な型は何かなどを理解し、使い分けることで明確に伝えている。  Ｂ：文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。  Ｃ：文、話、文章の適切な組み立てや接続表現が十分にできていない。  知　(1)カ  Ａ：実社会における様々な場面や相手によってふさわしい比喩、例示、言い換えなどの修辞や述べ方の種類があることを理解し、適切に使い分けている。  Ｂ：比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使用している。  Ｃ：比喩、例示、修辞の効果や述べ方について十分に理解できていない。  知　(2)ア  Ａ：主張や論拠などの情報と情報との関係性を理解した上で、主張の妥当性を明確に示すことができている。  Ｂ：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。  Ｃ：主張の論拠として妥当なものを明確に示すことができていない。  知　(2)ウ  Ａ：推論には演繹的な推論と帰納的な推論があることを理解し、意識的に使用している。  Ｂ：推論の仕方を理解し使用している。  Ｃ：推論の仕方を十分に理解できていない。 | 読　(1)ア  Ａ：「ヒトの『進化』と普遍性」について、書かれた文章の特徴や、構成、論理の展開などについて叙述を基に捉え、内容について批評的な視点で読んでいる。  Ｂ：「ヒトの『進化』と普遍性」について、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。  Ｃ：「ヒトの『進化』と普遍性」について、文章の構成や論理展開を十分に把握できてない。  読　(1)イ  Ａ：「ヒトの『進化』と普遍性」について、文章や図表などに含まれている情報を的確に把握し、書き手の意図や思考の強調点を読み取りながら、文章を対象化して吟味したり検討したりしながら批判的に読んでいる。  Ｂ：「ヒトの『進化』と普遍性」について、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。  Ｃ：「ヒトの『進化』と普遍性」について、文章や図表などに示されている情報について十分に関連づけができないため、書き手の意図をくみ取ることができず、吟味したり検討したりして読むことができない。 | 主  Ａ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開を把握し、それらを批評的な観点から読むことができている。  Ｂ：教材について、叙述を基に内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要点を把握することができている。  Ｃ：教材について、書き手の意図を把握することができている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 知知識・技能 | 思考・判断・表現  話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 主主体的に学習に取り組む態度 |
| １０ 展望を描く | 目の見えない人は世界をどう見ているのか　伊藤亜紗  （p.272～p.279） | ３ | 〈単元目標〉  想像する力を発揮して、望ましい未  来の姿を思い描く。  ・評論の読み方を習得する。  ・インタビューによる取材内容と筆者の考察とのつながりを理解する。  ・視覚障害者の晴眼者とは異なる空間認識のしかたを知ることで、世界の捉え方を相対化する。  ・実際に視覚障害者にとっての世界のあり方を追体験し、そのときに感じた空間イメージと、目が見えているときに感じた空間イメージとを比較し、捉え方の違いについて確認し合う。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。  知　(2)エ  Ａ：情報の吟味の仕方の様々な方法を知り、使い分けながら妥当性や信頼性を見極めている。  Ｂ：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使用している。  Ｃ：情報の妥当性や信頼性について理解が不十分で適確に判断できていない。 | 話　(1)ウ  Ａ：「目の見えない人は世界をどう見ているのか」について、話す内容が相手に正確に伝わり、理解を得るための適切な言葉や発話ができており、相手の共感を引き出して話を深めることができている。  Ｂ：「目の見えない人は世界をどう見ているのか」について、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるよう表現を工夫している。  Ｃ：「目の見えない人は世界をどう見ているのか」について、話し言葉の特徴や表現の特色の効果について十分に理解できていない。  話　(1)エ  Ａ：「目の見えない人は世界をどう見ているのか」について、論理の展開を予想した上で、聞き取った情報の妥当性や順序性、信頼度について的確に判断し、情報の整理のために必要な問いを立てるなど、思考を深めることができている。  Ｂ：「目の見えない人は世界をどう見ているのか」について、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。  Ｃ：「目の見えない人は世界をどう見ているのか」について、論理の展開が予想できず、話の内容や表現の仕方などを適切に評価できないため、情報を整理して考えたり問いを立てたりすることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分の世界観から一歩踏み出し、自らの想像力を働かせて主体性を持って未来の姿を思い描き、発信しようとしている。  Ｂ：自分の世界観から一歩踏み出し、自らの想像力を働かせて未来の姿を思い描き、発信しようとしている。  Ｃ：自分の世界観から一歩踏み出し、想像力を働かせて未来の姿を思い描こうとしている。  主  Ａ：教材から読み取った内容を実社会に照らし合わせて自らの問題として提起し、論じることで理解を深めている。  Ｂ：教材から読み取った内容に関連した事柄や情報について意見を述べることができている。  Ｃ：教材の内容について自分の考えを述べることができている。 |
| 実用的な文章７　地域紹介パンフレット―魅力を発信する  （p.280～p.281） | １ | 〈単元目標〉  想像する力を発揮して、望ましい未  来の姿を思い描く。  ・実用的な文章の読み方を習得する。  ・文章のタイプを判別し、概要を把握したうえで細部に着目するという、実用的な文章特有の読み解き方を身に付ける。  ・「企てる」タイプの文章について、その文章が伝えようとしていることを読み取り、それを伝えるためにどのような工夫が凝らされているかを考える。  ・自分の住んでいる地域の特色を挙げ、その地域をどうしていきたいか、展望を描く。描いた展望に基づき、伝える対象と目的を明確にし、地域紹介パンフレットを作成する。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)イ  Ａ：「実用的な文章７　地域紹介パンフレット」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「実用的な文章７　地域紹介パンフレット」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「実用的な文章７　地域紹介パンフレット」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。  書　(1)ウ  Ａ：「実用的な文章７　地域紹介パンフレット」について、自分が伝えたい考えや事柄が過不足なく説明され、適切な根拠が示されており、内容にふさわしい文章の種類や、文体や語句が的確に選択され、かつ読み手を配慮した表現が随所にみられる。  Ｂ：「実用的な文章７　地域紹介パンフレット」について、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。  Ｃ：「実用的な文章７　地域紹介パンフレット」について、自分の考えや事柄を説明するための根拠の示し方が十分でなく、語句の選択など事柄を伝えることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分の世界観から一歩踏み出し、自らの想像力を働かせて主体性を持って未来の姿を思い描き、発信しようとしている。  Ｂ：自分の世界観から一歩踏み出し、自らの想像力を働かせて未来の姿を思い描き、発信しようとしている。  Ｃ：自分の世界観から一歩踏み出し、想像力を働かせて未来の姿を思い描こうとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べることができている。 |
| 夢十夜（第一夜・第六夜）　夏目漱石  （p.282～p.291） | ４ | 〈単元目標〉  想像する力を発揮して、望ましい未  来の姿を思い描く。  ・登場人物の心情や行動の意図を捉える。  ・時代に対する語り手の批評の意識に迫り、現代の課題について考えを広げる。  ・第一夜のテーマや魅力を紹介するポップを作成する。  ・第六夜において批評の意識を持ち、私たちが生きている現代の課題を解決するための提案書を書く。 | 知　(1)イ  Ａ：話し言葉と書き言葉の語彙の特徴や役割、表現の特色や違いを十分に認識した上で、状況や相手によって、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意や親しさなど表現や言葉遣いに工夫を持たせて伝えようとしている。  Ｂ：話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使用している。  Ｃ：話し言葉と書き言葉の区別が明確にできていない。  知　(1)ウ  Ａ：常用漢字が読めるだけでなく、表記を文脈に応じて使い分け、仮名を用いるなどして読み手が読みやすいよう配慮している。  Ｂ：常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使用している。  Ｃ：常用漢字で読めない漢字や表記できない漢字がある。  知　(1)エ  Ａ：実社会において理解したり表現したりするための語句の種類や量が豊富であり、語彙の構造や特色を踏まえた上で、その用法や表記の仕方などを的確に理解し、話や文章の中で積極的に使用して語感を磨き続けている。  Ｂ：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。  Ｃ：実社会で使用する語句や語彙の量が乏しく、意味や用法によって適切に使い分けられていない。 | 書　(1)ア  Ａ：「夢十夜（第一夜・第六夜）」について、題材を実体験や他教科での学習経験、複数の媒体などと関連づけたものを設定し、集めた情報の重要度・位置づけを明確にすることができている。  Ｂ：「夢十夜（第一夜・第六夜）」について、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。  Ｃ：「夢十夜（第一夜・第六夜）」について、実社会への問題意識に乏しく、目的や意図をもって適切な題材を決めることができていない。  書　(1)イ  Ａ：「夢十夜（第一夜・第六夜）」について、読み手の考え方の共通点や相違点、関心の度合いや知識量なども考慮しながら、情報を精査し言葉を吟味して文章を構成している。  Ｂ：「夢十夜（第一夜・第六夜）」について、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。  Ｃ：「夢十夜（第一夜・第六夜）」について、読み手に対して自分が主張したいことが明確に表わせないため、正しく伝わる文章としてまとめることができていない。 | 〈単元目標に対して〉  主  Ａ：自分の世界観から一歩踏み出し、自らの想像力を働かせて主体性を持って未来の姿を思い描き、発信しようとしている。  Ｂ：自分の世界観から一歩踏み出し、自らの想像力を働かせて未来の姿を思い描き、発信しようとしている。  Ｃ：自分の世界観から一歩踏み出し、想像力を働かせて未来の姿を思い描こうとしている。  主  Ａ：教材の内容について考察し、テーマを設定して情報を収集・吟味し、論述することができている。  Ｂ：教材の内容について自分の意見を書くことができている。  Ｃ：教材の内容について感想を述べ  ることができている。 |